

⑦広瀬川

i 整備方針

【環境・景観】広瀬川は、曾我川と葛城川に挟まれた田園地帯を流れる河川である。川幅が狭小で、殆どの区間がコンクリートブロック積護岸である。河川の整備を行う際は、みお筋の形成や水際の植生の回復に努めるほか、周辺の田園風景と調和した整備を図る。

【利用・利水】取水施設や取水量の把握に努め、継続的に水質や水量の把握に努める。なお、広瀬川の川沿いでは、これまで親水公園等の整備は行われていない。

【治水】広陵町大場地内は葛城川の背水区間（内水区間）であり、葛城川との合流点に背水樋門が設けられている。また、川幅が狭小なことから、洪水を流下する能力が著しく不足し浸水被害が発生しているため、下流より河道改修を実施し浸水被害の軽減を図る。さらに、内水対策については、国管理区間の計画との整合を図りながら調査検討を進める。

ii 河川工事の目的

当面の間、概ね10年に1回程度の確率で発生する降雨の洪水を安全に流下させるとともに生物の生息環境を保全する。

iii 河川工事の種類

現況の河道法線をもとに、河道断面の拡大(拡幅・河床掘削)を行う。
内水対策について調査・検討を行う。

iv 河川工事の施行の場所

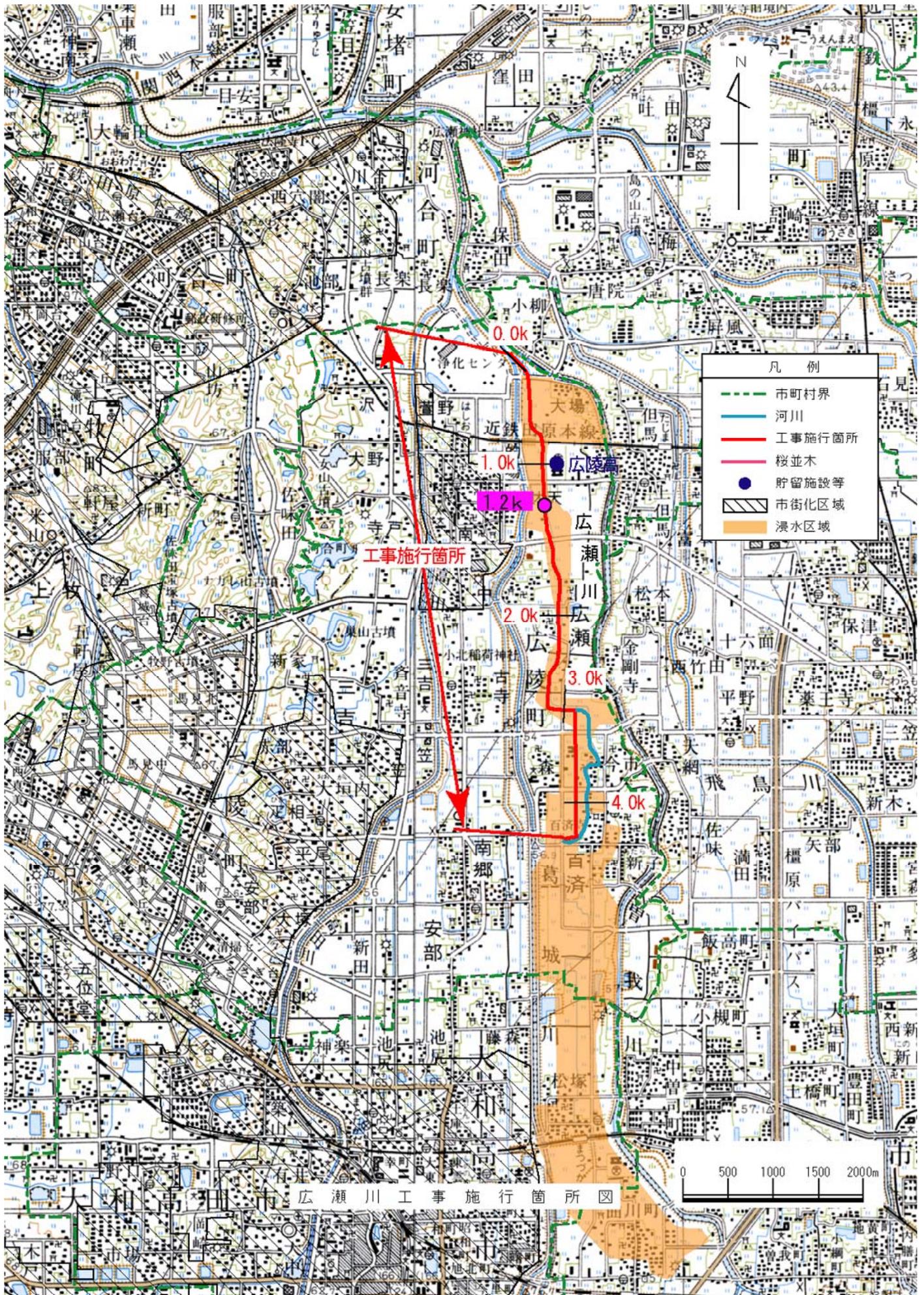
広陵町大場地内から広陵町百済地内

(葛城川合流点から一級河川上流端まで約4,000m 河道拡幅・河床掘削・バイパス水路の開削)

施行区間内の主な既存工作物

橋 梁	4 4 橋
取 水 堰	1 0 基





※浸水区域は、過去の主要洪水による浸水実績を重ね合わせたものです。